

短期大学部（船橋校舎）（短期大学士（工学））の卒業の認定に関する方針

【前文】

日本大学短期大学部（船橋校舎）（短期大学士（工学））は、2年以上在学し、建築・生活デザイン学科、ものづくり・サイエンス総合学科（機械工学分野、電気電子工学分野、情報科学分野、応用化学分野）の短期大学部学則に定める各所定の授業科目を履修し、所定の単位を修得した上で、日本大学建学の精神を理解するとともに、日本大学教育憲章に基づき、以下に定める本大学の教育理念「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」、「自ら道をひらく」能力を身に付けた者に対して卒業を認定し、短期大学士（工学）の学位を授与する。

【表】

日本大学教育憲章 （「自主創造」の3つの構成要素 及びその能力）		卒業の認定に関する方針	
構成要素 （コンピテンス）	能力 （コンピテンシー）	構成要素 （コンピテンス）	能力 （コンピテンシー）
豊かな教養・知識に基づく高い倫理観	豊かな知識・教養を基に倫理観を高めることができる。	幅広い知識、豊かな教養と高い倫理観	DP1 幅広い知識と豊かな教養に基づいて、技術者としての倫理観・責任感を高めることができる。
世界の現状を理解し、説明する力	世界情勢を理解し、国際社会が直面している問題を説明することができる。	世界情勢や国際社会における問題の把握と多様性の理解	DP2 国内外の情勢を把握し理解を深め、そこに存在する多様な文化や背景を理解し、国際社会が直面する問題を説明することができる。
論理的・批判的思考力	得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。	論理的・批判的思考力	DP3 多様な情報や知識を収集し、科学技術リテラシーを用いて多角的・論理的に分析・整理することにより、論理的な思考、批判的な思考をすることができる。
問題発見・解決力	事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。	問題発見・解決力	DP4 事象を注意深く観察し収集した情報や知識を基に能動的に課題を発見し、工学に関する専門知識を活用して解決策を提案することができる。
挑戦力	あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。	挑戦力	DP5 自ら目標を設定し、その達成のために自ら考え、計画し行動するとともに、あきらめない気持ちを持って新しいことに果敢に挑戦することができる。
コミュニケーション力	他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを伝えることができる。	コミュニケーション力	DP6 他者の考えや思いを聴いて理解するとともに、自らの思考・判断のプロセスを説明し自分の考えを伝えることができる。
リーダーシップ・協働力	集団のなかで連携しながら、協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。	リーダーシップ・協働力	DP7 互いに異なる意見を持つ集団のなかで、互いに連携しながらリーダーシップを発揮して協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。
省察力	謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高めることができる。	省察力	DP8 謙虚に他者の声に耳を傾けるとともに自己を見つめ、自律的・継続的な振り返りを通じて自己を高めることができる。

短期大学部（船橋校舎）（短期大学士（理学））の卒業の認定に関する方針

【前文】

日本大学短期大学部（船橋校舎）（短期大学士（理学））は、2年以上在学し、ものづくり・サイエンス総合学科（物理学分野、数学分野、総合科学分野）の短期大学部学則に定める各所定の授業科目を履修し、所定の単位を修得した上で、日本大学建学の精神を理解するとともに、日本大学教育憲章に基づき、以下に定める本大学の教育理念「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」、「自ら道をひらく」能力を身に付けた者に対して卒業を認定し、短期大学士（理学）の学位を授与する。

【表】

日本大学教育憲章 （「自主創造」の3つの構成要素 及びその能力）		卒業の認定に関する方針	
構成要素 （コンピテンス）	能力 （コンピテンシー）	構成要素 （コンピテンス）	能力 （コンピテンシー）
豊かな教養・知識 に基づく高い倫理 観	豊かな知識・教養を 基に倫理観を高める ことができる。	幅広い知識、豊かな 教養と高い倫理観	DP1 幅広い知識と豊かな教養に基づいて、科学に携わる者としての倫理観・責任感を高めることができる。
世界の現状を理解 し、説明する力	世界情勢を理解し、 国際社会が直面して いる問題を説明する ことができる。	世界情勢や国際社会 における問題の把握 と多様性の理解	DP2 国内外の情勢を把握し理解を深め、そこに存在する多様な文化や背景を理解し、国際社会が直面する問題を説明することができる。
論理的・批判的思 考力	得られる情報を基に 論理的な思考、批判 的な思考をすること ができる。	論理的・批判的思 考力	DP3 多様な情報や知識を収集し、科学技術リテラシーを用いて多角的・論理的に分析・整理することにより、論理的な思考、批判的な思考をすることができる。
問題発見・解決力	事象を注意深く観察 して問題を発見し、 解決策を提案するこ とができる。	問題発見・解決力	DP4 事象を注意深く観察し収集した情報や知識を基に能動的に課題を発見し、理学に関する専門知識を活用して解決策を提案することができる。
挑戦力	あきらめない気持ち で新しいことに果敢 に挑戦することがで きる。	挑戦力	DP5 自ら目標を設定し、その達成のために自ら考え、計画し行動するとともに、あきらめない気持ちを持って新しいことに果敢に挑戦することができる。
コミュニケーション 力	他者の意見を聴いて 理解し、自分の考え を伝えることができ る。	コミュニケーション 力	DP6 他者の考えや思いを聴いて理解するとともに、自らの思考・判断のプロセスを説明し自分の考えを伝えることができる。
リーダーシップ・ 協働力	集団のなかで連携し ながら、協働者の力 を引き出し、その活 躍を支援することが できる。	リーダーシップ・協 働力	DP7 互いに異なる意見を持つ集団のなかで、互いに連携しながらリーダーシップを発揮して協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。
省察力	謙虚に自己を見つ め、振り返りを通じ て自己を高めるこ とができる。	省察力	DP8 謙虚に他者の声に耳を傾けるとともに自己を見つめ、自律的・継続的な振り返りを通じて自己を高めることができる。

短期大学部（船橋校舎）（短期大学士（工学））の教育課程の編成及び実施に関する方針

【前文】

本短期大学部（船橋校舎）（短期大学士（工学））では、日本大学教育憲章（以下、「憲章」という）を基に、専門分野を加味した卒業の認定に関する方針に沿って、建築・生活デザイン学科及びものづくり・サイエンス総合学科（機械工学分野、電気電子工学分野、情報科学分野、応用化学分野）の教育課程を編成し実施する。

下表の「憲章」に基づく卒業の認定に関する方針として示された8つの能力（コンピテンシー）を養成するために、総合教育（必修科目、教養教育部門、言語教育部門）、専門教育（必修科目、共通基礎教育部門、共通専門教育部門、分野別専門教育部門、キャリア・職業教育部門）及び補充教育の授業科目を各能力に即して体系化するとともに、講義・演習・実験・実習・実技の授業形態を組み入れた多様な学修方法による教育課程を編成し実施する。

学修成果の評価は、専門的な知識・技能・態度を修得する授業科目に関しては、理解度確認テスト、小テスト、レポート、プレゼンテーション、作品など、授業形態や授業内容・方法に即した多面的な評価方法により、各授業科目のシラバスに明示される学修到達目標の達成度について判定する。

卒業の認定に関する方針の8つの能力（コンピテンシー）に関する達成度については、卒業研究の評価、アセスメント・テストによる専門基礎知識の獲得度その他各学科が定める適切な方法に基づき、段階的かつ総合的に判定する。

「憲章」に示される日本大学マインド及び自主創造の8つの能力（汎用的能力）に関する達成度については、日本大学教育憲章ルーブリック、卒業研究の成果、アセスメント・テストの結果その他本大学が定める適切な方法に基づき、段階的かつ総合的に判定する。

【表】

日本大学教育憲章 （「自主創造」の3つの構成要素 及びその能力）		卒業の認定に関する方針		教育課程の編成及び実施に関する方針
構成要素 （コンピテンス）	能力 （コンピテンシー）	構成要素 （コンピテンス）	能力 （コンピテンシー）	
豊かな教養・知識に基づく高い倫理観	豊かな知識・教養を基に倫理観を高めることができる。	幅広い知識、豊かな教養と高い倫理観	DP1 幅広い知識と豊かな教養に基づいて、技術者としての倫理観・責任感を高めることができる。	CP1 全学共通教育科目、教養教育部門科目及び共通基礎教育部門科目の学修を通じて、理系・文系の学問領域にとらわれない幅広い知識と豊かな教養を身に付け、技術者としての倫理観・責任感を高めようとする態度を培う。
世界の現状を理解し、説明する力	世界情勢を理解し、国際社会が直面している問題を説明することができる。	世界情勢や国際社会における問題の把握と多様性の理解	DP2 国内外の情勢を把握し理解を深め、そこに存在する多様な文化や背景を理解し、国際社会が直面する問題を説明することができる。	CP2 教養教育部門科目、言語教育部門科目、共通専門教育部門科目、分野別専門教育部門科目及びキャリア・職業教育部門科目の学修を通じて、国内外の情勢を把握し理解を深めるとともに、そこに存在する多様な文化や背景を理解し、国際社会が直面する問題を説明できる能力を養成する。
論理的・批判的思考力	得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。	論理的・批判的思考力	DP3 多様な情報や知識を収集し、科学技術リテラシーを用いて多角的・論理的に分析・整理することにより、論理的な思考、批判的な思考をすることができる。	CP3 共通基礎教育部門科目、共通専門教育部門科目、分野別専門教育部門科目及びキャリア・職業教育部門科目の学修を通じて、収集した多様な情報や知識を科学技術リテラシーを用いて多角的・論理的に分析・整理し、的確に評価・考察する能力を培い、論理的・批判的思考力を養成する。

日本大学教育憲章 （「自主創造」の3つの構成要素 及びその能力）		卒業の認定に関する方針		教育課程の編成及び実施に関する方針
構成要素 （コンピテンス）	能力 （コンピテンシー）	構成要素 （コンピテンス）	能力 （コンピテンシー）	
問題発見・解決力	事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。	問題発見・解決力	DP4 事象を注意深く観察し収集した情報や知識を基に能動的に課題を発見し、工学に関する専門知識を活用して解決策を提案することができる。	CP4 ゼミナール系科目、共通基礎教育部門科目、共通専門教育部門科目、分野別専門教育部門科目及びキャリア・職業教育部門科目の学修を通じて、事象を注意深く観察し収集した情報や知識を基に、能動的に課題を発見し、工学に関する専門知識を活用して解決策を提案できる能力を養成する。
挑戦力	あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。	挑戦力	DP5 自ら目標を設定し、その達成のために自ら考え、計画し行動するとともに、あきらめない気持ちを持って新しいことに果敢に挑戦することができる。	CP5 全学共通教育科目、体育実技科目、ゼミナール系科目及びキャリア・職業教育部門科目の学修を通じて、自ら目標を設定し、その達成のために自ら考え、計画し行動するとともに、あきらめない気持ちを持って新しいことに果敢に挑戦する態度を培う。
コミュニケーション力	他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを伝えることができる。	コミュニケーション力	DP6 他者の考えや思いを聴いて理解するとともに、自らの思考・判断のプロセスを説明し自分の考えを伝えることができる。	CP6 全学共通教育科目、言語教育部門科目、ゼミナール系科目、実験・実習・実技科目及びキャリア・職業教育部門科目の学修を通じて、集団としての問題発見・解決のプロセスを学び、他者の考えや思いを聴いて理解するとともに、自らの思考・判断のプロセスを説明し自分の考えを伝達する能力を養成する。
リーダーシップ・協働力	集団のなかで連携しながら、協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。	リーダーシップ・協働力	DP7 互いに異なる意見を持つ集団のなかで、互いに連携しながらリーダーシップを発揮して協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。	CP7 全学共通教育科目、ゼミナール系科目、実験・実習・実技科目及びキャリア・職業教育部門科目の学修を通じて、互いに異なる意見を持つ集団のなかで、互いに連携しながらリーダーシップを発揮して協働者の力を引き出し、その活躍を支援できる能力を養成する。
省察力	謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高めることができる。	省察力	DP8 謙虚に他者の声に耳を傾けるとともに自己を見つめ、自律的・継続的な振り返りを通じて自己を高めることができる。	CP8 初年次教育から専門教育に至る学修を通じて、謙虚に他者の声に耳を傾けるとともに自己を見つめ、振り返りの習慣を身に付けることにより、生涯にわたって学び続け、自己を高めていく姿勢を培う。

短期大学部（船橋校舎）（短期大学士（理学））の教育課程の編成及び実施に関する方針

【前文】

本短期大学部（船橋校舎）（短期大学士（理学））では、日本大学教育憲章（以下、「憲章」という）を基に、専門分野を加味した卒業の認定に関する方針に沿って、ものづくり・サイエンス総合学科（物理学分野、数学分野、総合科学分野）の教育課程を編成し実施する。

下表の「憲章」に基づく卒業の認定に関する方針として示された8つの能力（コンピテンシー）を養成するために、総合教育（必修科目、教養教育部門、言語教育部門）、専門教育（必修科目、分野別専門教育部門、キャリア・職業教育部門）及び補充教育の授業科目を各能力に即して体系化するとともに、講義・演習・実験・実習・実技の授業形態を組み入れた多様な学修方法による教育課程を編成し実施する。

学修成果の評価は、専門的な知識・技能・態度を修得する授業科目に関しては、理解度確認テスト、小テスト、レポート、プレゼンテーション、作品など、授業形態や授業内容・方法に即した多面的な評価方法により、各授業科目のシラバスに明示される学修到達目標の達成度について判定する。

卒業の認定に関する方針の8つの能力（コンピテンシー）に関する達成度については、卒業研究の評価、アセスメント・テストによる専門基礎知識の獲得度その他学科が定める適切な方法に基づき、段階的かつ総合的に判定する。

「憲章」に示される日本大学マインド及び自主創造の8つの能力（汎用的能力）に関する達成度については、日本大学教育憲章ルーブリック、卒業研究の成果、アセスメント・テストの結果その他本大学が定める適切な方法に基づき、段階的かつ総合的に判定する。

【表】

日本大学教育憲章 （「自主創造」の3つの構成要素 及びその能力）		卒業の認定に関する方針		教育課程の編成及び実施に関する方針
構成要素 （コンピテンス）	能力 （コンピテンシー）	構成要素 （コンピテンス）	能力 （コンピテンシー）	
豊かな教養・知識に基づく高い倫理観	豊かな知識・教養を基に倫理観を高めることができる。	幅広い知識、豊かな教養と高い倫理観	DP1 幅広い知識と豊かな教養に基づいて、科学に携わる者としての倫理観・責任感を高めることができる。	CP1 全学共通教育科目、教養教育部門科目及び共通基礎教育部門科目の学修を通じて、理系・文系の学問領域にとらわれない幅広い知識と豊かな教養を身に付け、科学に携わる者としての倫理観・責任感を高めようとする態度を培う。
世界の現状を理解し、説明する力	世界情勢を理解し、国際社会が直面している問題を説明することができる。	世界情勢や国際社会における問題の把握と多様性の理解	DP2 国内外の情勢を把握し理解を深め、そこに存在する多様な文化や背景を理解し、国際社会が直面する問題を説明することができる。	CP2 教養教育部門科目、言語教育部門科目、共通専門教育部門科目、分野別専門教育部門科目及びキャリア・職業教育部門科目の学修を通じて、国内外の情勢を把握し理解を深めるとともに、そこに存在する多様な文化や背景を理解し、国際社会が直面する問題を説明できる能力を養成する。
論理的・批判的思考力	得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。	論理的・批判的思考力	DP3 多様な情報や知識を収集し、科学技術リテラシーを用いて多角的・論理的に分析・整理することにより、論理的な思考、批判的な思考をすることができる。	CP3 共通基礎教育部門科目、共通専門教育部門科目、分野別専門教育部門科目及びキャリア・職業教育部門科目の学修を通じて、収集した多様な情報や知識を科学技術リテラシーを用いて多角的・論理的に分析・整理し、的確に評価・考察する能力を培い、論理的・批判的思考力を養成する。

日本大学教育憲章 （「自主創造」の3つの構成要素 及びその能力）		卒業の認定に関する方針		教育課程の編成及び実施に関する方針
構成要素 （コンピテンス）	能力 （コンピテンシー）	構成要素 （コンピテンス）	能力 （コンピテンシー）	
問題発見・解決力	事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。	問題発見・解決力	DP4 事象を注意深く観察し収集した情報や知識を基に能動的に課題を発見し、理学に関する専門知識を活用して解決策を提案することができる。	CP4 ゼミナール系科目、共通基礎教育部門科目、共通専門教育部門科目、分野別専門教育部門科目及びキャリア・職業教育部門科目の学修を通じて、事象を注意深く観察し収集した情報や知識を基に、能動的に課題を発見し、理学に関する専門知識を活用して解決策を提案できる能力を養成する。
挑戦力	あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。	挑戦力	DP5 自ら目標を設定し、その達成のために自ら考え、計画し行動するとともに、あきらめない気持ちを持って新しいことに果敢に挑戦することができる。	CP5 全学共通初年次教育科目、体育実技科目、ゼミナール系科目及びキャリア・職業教育部門科目の学修を通じて、自ら目標を設定し、その達成のために自ら考え、計画し行動するとともに、あきらめない気持ちを持って新しいことに果敢に挑戦する態度を培う。
コミュニケーション力	他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを伝えることができる。	コミュニケーション力	DP6 他者の考えや思いを聴いて理解するとともに、自らの思考・判断のプロセスを説明し自分の考えを伝えることができる。	CP6 全学共通初年次教育科目、言語教育部門科目、ゼミナール系科目、実験・実習・実技科目及びキャリア・職業教育部門科目の学修を通じて、集団としての問題発見・解決のプロセスを学び、他者の考えや思いを聴いて理解するとともに、自らの思考・判断のプロセスを説明し自分の考えを伝達する能力を養成する。
リーダーシップ・協働力	集団のなかで連携しながら、協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。	リーダーシップ・協働力	DP7 互いに異なる意見を持つ集団のなかで、互いに連携しながらリーダーシップを発揮して協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。	CP7 全学共通教育科目、ゼミナール系科目、実験・実習・実技科目及びキャリア・職業教育部門科目の学修を通じて、互いに異なる意見を持つ集団のなかで、互いに連携しながらリーダーシップを発揮して協働者の力を引き出し、その活躍を支援できる能力を養成する。
省察力	謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高めることができる。	省察力	DP8 謙虚に他者の声に耳を傾けるとともに自己を見つめ、自律的・継続的な振り返りを通じて自己を高めることができる。	CP8 初年次教育から専門教育に至る学修を通じて、謙虚に他者の声に耳を傾けるとともに自己を見つめ、振り返りの習慣を身に付けることにより、生涯にわたって学び続け、自己を高めていく姿勢を培う。